

栽培用キクラゲ品種の遺伝的多様性の解析

1200211 北代泰勢

Genetic diversity analysis of Jew's-ear mushroom cultivation strains

Taisei Kitadai

現在、食用菌の栽培は、中山間地域の特産林産物として、また地域の特産品としての農産物として年々注目が高まっている。その中で生キクラゲは、乾燥品を水戻ししたものより弾力性と歯ごたえに富んでおり、新しい作物として、近年は市場での流通量が増加してきた。キクラゲ商品の表記はほとんど「きくらげ」となっているが、実際にはキクラゲ(*Auricularia auricula-judae*),アラゲキクラゲ(*Auricularia polytricha*) が混在している可能性が考えられる。また、シロキクラゲと白いキクラゲが混同している可能性も指摘されている。

そこで本研究では、日本国内で流通している生および乾燥キクラゲから DNA を抽出して PCR によって ITS 領域領域の塩基配列を取得し、その配列を比較することで多様性を検出し違いについて検討することを目的とした。また、シロキクラゲと白いキクラゲの違いについて検討した。その結果、食品として流通しているきくらげは、*Auricularia cornea* や *Auricularia scissa* であることが明らかとなった。